

♪ 2019年度 **poco a poco** ♪

Nr. 14 2019年10月31日(木) 文責:プファイル・辰巳

Winterzeit--- Lesezeit ?

冬時間が始まりました。朝の時間帯が少し明るくなったのはうれしいのですが、日暮れはめっきり早くなってしまいましたね。さて晩秋から冬にかけての長い夜の時間、みなさんは何をして過ごされるのでしょうか？ 読書や手芸でしょうか？ あるいは寒さに負けないための筋トレ？ コンサートホールや教会、オペラ劇場などでは、本格的なコンサートシーズンが始まりました。音楽も、暗く長い冬の夜長を過ごすための、ドイツ人の知恵のようですね。ぜひ、こちらにお住まいのうちに、コンサートやオペラにもお出かけください。



音楽こぼれ話 <大作曲家の家族たち ⑦ ドヴォルザークの子孫

～ふたりのヨーゼフ・スーク～

先日アルテオーパーのコンサートに出かけました。サー・エリオット・ガーディナーの指揮、ロンドン・シンフォニー・オーケストラの演奏で、ドヴォルザークのチェロ協奏曲とヨーゼフ・スークの交響曲というプログラムでした。私のお目当ては、もちろん大好きなドヴォルザークのチェロ協奏曲だったのですが、プログラムのヨーゼフ・スークという名前を見て、「おや？」と思いました。

ドヴォルザークはもちろん有名なチェコを代表する作曲家です。19世紀後半に注目され、アメリカにまで渡って活躍しました。

では、ヨーゼフ・スークの方は？ 私は2011年に81歳で亡くなったチェコ人のヴァイオリニストのヨーゼフ・スークは知っていました。(へえ、スークって作曲もしていたのかな？) そんな勝手な想像をしながら、プログラムを読んでいると、このヨーゼフ・スーク

は1874年生まれと書いてありました。没年は1935年。(同姓同名の別人か。)と思いつつ、さらに解説を読み進めると、作曲家ヨーゼフ・スークは、ドヴォルザークの弟子であり、娘婿であったと書いてあるではありませんか。(ほう!)と思わず心の中で感嘆しました。そして、なんと同名のヴァイオリニスト、ヨーゼフ・スークは、作曲家スークの孫であることが判明しました。

つまり、世界的なヴァイオリニストとして活躍していたヨーゼフ・スークは、大作曲家ドヴォルザークの曾孫に当たるのでした。大作曲家の子孫が現代のクラシック界で、つい最近まで演奏家として活躍していたのかと思うと、感慨深いものがあります。

そして、初めて聞いた作曲家スークの作品は…。ブラームスからドヴォルザークという路線を受け継いでいるもの、と思いついて期待したのですが、時代はマーラーやR. シュトラウスの音楽に傾いていたようです。半音階や無調に近い響きが続出し、全体として難解な印象を受けました。そして、長かった。難解な響きがウネウネと1時間以上続き、演奏会の終了時刻は22時30分を過ぎるという事態に。途中で席を立つ聴衆もチラホラ見え、(作曲家スークさん、師匠を超えることはできませんでしたね。)と心の中で思っていました。(ごめんなさい。)

しかし、この長丁場の演目を、76歳のガーディナーが見事な集中力で指揮棒を振り切ったのには脱帽しました。また、ホルン奏者が7人も並んだオーケストラ編成にもちょっとびっくりしました。金管楽器の花形トランペットは隅に追いやられ、ピカピカ光るホルンがズラリと並んだ所は、なかなか壮観でした。長かったですが、いろいろなことを学んだコンサートでした。

ちょっとだけ 演奏会情報

～アルテオーパー・11月の演目より～

11月 3日(日) 大ホールにて
17時から ベルリンフィルの12人の
チェリストたち
ドヴォルザーク、ドビュッシーの作品ほか

11月 12日(火) 大ホールにて
20時から ソコロフのピアノリサイタル ブラームスのピアノ作品

